

# 天地と対話する身体 ——中国医学の伝播と独自化



茨城大学大学院人文科学研究科 真柳 誠

後漢時代に基本古典が成立した中国医学は、天地と対話する身体観をベースに生理・病理や治療を論じ、実践してきた。つまり天地—風土が異なれば、人々の身体—体質・気質が異なり、疾病構造も治療も異なると考えてきた。それゆえ漢字文化圏のベトナム・朝鮮半島・日本では、子細に見ると相互にかなり異なる中国系伝統医学が現在行われている。

他方、漢字文化圏の現存古医籍を私がここ十数年悉皆調査した結果、かつて誰も気づかなかった共通の歴史現象が浮かび上がってきた。これは各国の独自化を代表する近世の医書、日本の『啓迪集』(1574)、韓国の『東医宝鑑』(1611)、ベトナムの『医宗心領』(1780)に共通する以下の諸点である。日韓越の各書は各々一人の医家が体系づけた医学全書で、自国を中国と区別する意識が見える点。各書が多く引用する中国書も共通し、それらは明代の一人の医家が著した医学全書で、みな自己の学説と地域差を強調する点だった。日韓越の医学は、共通の意識とモデルに基づき独自化を進めていたのである。

にもかかわらず、現在の日韓越には上述の相違がある。むしろ各国が固有に独自化したからでもあるが、もう一つの要因もあった。韓国とベトナムでは近世に独自化した医療が今なお行われているのに対し、日本では江戸中期より中国古典

医学の重視で再度の独自化が進行し、これが現在の臨床に影響しているからである。私は以前、そうした臨床上の相違はあっても、各国とも同様に古典医学を研究していただろうと思っていた。しかし調査の完結が近づいた今、中国以外の漢字文化圏で古典医学に傾倒してきたのは日本だけ、という不思議な現象も史実として確信できるようになった。

これには以下の要因が想定できる。日本だけ唯一島国で中国との往来が困難なため、難解な医学古典も独力で研究したこと。中国の支配が唯一なかったため、中国文化の根源まで親近感やあこがれを持ち続けたこと。科挙制度を唯一採用しなかったため、学医は士農工商をすり抜けて高い地位を得られたため、古典医学が研究されたこと。中国以外で唯一、江戸期は都市を中心に商業出版が盛行し、古典や研究書の普及が一層の研究を促したこと。以上の要因が複合的に作用し、江戸中期から再度の独自化が進行したのである。

中国医学は原初から環境と疾病の関連を認め、これを受容した日韓越は共通の意識・モデルと、異なる風土に基づき独自化を成し遂げていた。日本でのみ更なる独自化が進行した要因も見出された。より解析が進めば、漢字文化圏医学の史的共通性と、各国固有の現象がさらに浮かび上がるだろう。

## 摘要

## 与天地对话的身体——中国医学的传播与独特性

茨城大学大学院人文科学研究科 真柳 誠

中国医学从一开始便承认了环境与疾病的关联。通过调查汉字文化圈日韩越的古代医学书籍，有了新的发现：近代各

国都通用并接受了这种强调地域差异的明代医书，并各自发展，独具特色。还找出了只有日本实现了进一步独立发展的要因。

## Abstract

## Bodies in dialogue with heaven and earth

The diffusion and developing uniqueness of Chinese medicine

Graduate School of Humanities, Ibaraki University MAYANAGI, Makoto

From the beginning, Chinese medicine has recognized the connection between the environment and disease. Based upon research regarding old medical records for Japan, Korea and Vietnam which lie within the Chinese character cultural sphere, new knowledge was obtained

that each of these countries shared in common their acceptance of the Ming Dynasty books on medicine that accentuate regional differences and promoted uniqueness. The primary factors which advanced a further uniqueness that is singular to Japan were studied as well.